

令和5年度 学校自己評価書(様式)

鈴鹿市立庄内小学校		NO. 1	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価と今後の改善点
学力向上	<p>確かな学力と基本的な生活習慣を身につけた子どもの育成 ○全国学力・学習状況調査、みえスタの結果分析と授業改善への活用</p> <p>①児童の強みや弱みを全教職員で共有し日頃の授業に生かす。 →「指導と評価の一体化」の学習会実施と年11回の全体研修会の開催 →TTによる算数科授業(週8時間) →全教員が公開授業を行い、学校全体で授業改善に取り組む。</p>	<p>確かな学力と基本的な生活習慣を身につけた子どもの育成 ○全国学力・学習状況調査、みえスタの結果分析と授業改善への活用</p> <p>①【成果】 ・全教職員でみえスタ、全国学調の分析を行い、強みや弱みを共有し研究授業に取り組んだ。 ・全国学調 国語 平均正答数 全国より0.5P、三重県より0.5P低い 読み取りが弱い「書くこと」は改善 算数 平均正答数 全国より0.5P、三重県より0.4P低い 図形が弱い「データ活用」「変化と関係」改善 「書くこと」に弱みがあったため、各学年の掲示板に子どもの書いた作品を掲示したり、通信で紹介したり行事ごとに振り返り作文を書かせたりして意識づけを行い、昨年度から「書く」活動に積極的に取り組んだところ、全国学調で改善が見られた。 児童アンケートの結果からも「日記を週1回は書いている」割合は、昨年の65.8%から今年度は82.1%になった。 ・昨年度5・6年生において、算数科の「データ活用」や「変化と関係」の単元で、習熟度別授業(T・Tを含む)を実施したところ、全国学調で改善が見られた。本年度は3・4年生で実施。 【課題】 ・日常的な授業改善の交流を行い、評価と指導の一体化の研修を続ける必要がある。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査、みえスタの結果分析と授業改善への活用 【学校関係者評価】</p> <p>①児童の強みや弱みを全教職員で共有し日頃の授業に生かす。 ○前年度の反省から今年度に活かした取組をたくさんしていることがよく分かる。 ▲アンケート結果や調査など、少し数字にこだわりすぎではないでしょうか。その学年によって子どもが違うわけですし、数字が一番わかりやすいのかもしれませんが(毎年工夫して取り組んでいただいているのもよくなります) ▲アンケートなどの数値が低下している部分については、原因の把握が必要と考える。</p> <p>【意見交流】 ○夏休み中に、学校運営協議会委員と先生とで、意見交換をしたのは、各学年の話が聞けて内容も分かりやすかったので続けるとよい。</p> <p>【習熟度別授業について】 ○算数の習熟度別授業の効果は見ており適切な指導がなされていると思う。 ○昨年度、5、6年生において改善が見られた習熟度別授業を、今年度3・4年生への実施に広げ、児童に寄り添った授業を展開するのはとても良いと感じた。</p> <p>【書く活動について】 ○日記や作文などの「書く」活動は、多角的に物事を考えたり、漢字を覚えたりすることができ、積極的に取り組むことで成果が出ているので、継続していくことが必要と考える。 ○パソコンやスマホの普及により書く機会が減っている中で、「書くこと」について改善が見られたことは素晴らしいと思う。 ○書くことに弱みがあり、各活動を積極的に取り組むことを継続することは大切なことだと思うので、今後も引き続き継続してほしい。</p>
	<p>②月曜5限の「いきいきタイム」で全国学力学習状況調査やみえスタディチェックの過去問題や学VIVaセットを活用した弱み克服の学習を行う。(月2回)。</p> <p>&lt;指標&gt; 【保護者アンケート】「おさんは学校の授業が分かっていますか」90%達成 【研修・学習アンケート】「勉強が分かれますか」90%達成</p>	<p>②【成果】 ・月曜5限の「いきいきタイム」で、学習ボランティアによる算数のプリント学習を行った。また月2回は、国語と算数で、過去問題や学VIVaセットを活用した弱み克服のための学習を全学年で一斉に行った。 【課題】 ・「いきいきタイム」の有効性を測る事が難しいが、全国学調の算数科で弱みであった「データ活用」と「変化と関係」において改善が見られたので、過去問題や学VIVaセットを活用した学習を続けていく。学年による取組の差を校内研修を通じて解消していく。</p> <p>&lt;指標&gt; ・【保護者アンケート】「おさんは学校の授業が分かっていますか」1学期82%→2学期85%▲ ・【研修・学習アンケート】「勉強が分かれますか」 90.9% 達成</p>	<p>②「いきいきタイム」で弱み克服の学習を行う。 ○過去問などで一問でも多くの問題を解くことにより、問題への慣れや苦手克服の成果が十分に数字に出ており、適切な指導の効果が出ていると感じる。 ▲チェックシートの数値が低下している部分については、原因の把握が必要と考える。 ▲全員が同じ問題に取り組んでいくのもよいが、ボランティアの方も来ていただいているので、苦手な問題別にクラス内で取り組んでみてはどうなのでしょう。理解している児童もいるので、全員が同じものに取り組むのも気になります。</p>
	<p>○家庭学習習慣と基本的な生活習慣の定着 →学習の手引きの配布、PTA総会や学校運営協議会、学童等への啓蒙</p> <p>①15分×学年の家庭学習の定着と二極化の是正 鈴峰中校区で連携して「家庭学習強化週間」を年3回実施。 【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】80%達成 【保護者アンケート】74→80%達成</p> <p>②基本的な生活習慣の定着 【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】起床時刻85%達成 【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】就寝時刻85%達成</p> <p>③読書習慣の推進と図書館の整備(本棚の見える化) 【保護者アンケート】「おさんは家庭で読書をしている」80%達成 一人年間貸し出し冊数 平均60冊以上</p>	<p>○家庭学習習慣と基本的な生活習慣の定着</p> <p>①【成果】 ・学習の手引きを配布し、PTA総会や学校運営協議会の場で現状を伝えた。 PTAの家庭教育学級(7月19日)で、「子育ての充実のために～子育ての中で実現したいこと～」の学習会を行い、スマホなどの使い方などについて啓蒙した。 鈴峰中校区で「家庭学習強化週間」を年3回取り組み、意識づけを図った。 【課題】 ・15分×学年の家庭学習の定着(全体84%肯定的回答)と二極化の是正はできていない。 1学期(平均) 1年20.2分、2年30.6分、3年40.0分▲、4年54.2分▲、5年63.2分▲、6年91.8分 ・【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】2学期 47.9% (80%未達成) ・【保護者アンケート】 1学期 70.3%→2学期 60.0% (80%未達成)</p> <p>②【成果】 ・【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】起床時刻 1学期 85.2%→2学期 80.8%未達成 ・【中学校区・家庭学習強化週間チェックシート】就寝時刻 1学期 81.3%→2学期 75.7%未達成</p> <p>③【成果】 ・読書習慣の推進のため、「頭と心の貯金通帳」の特別版を発行して、データをまとめ、学校だよりにて現状について保護者に呼びかけた。図書館担当、図書館巡回指導員、図書館ボランティアの協力により、本棚の見える化など、過ごしやすく借りやすい図書館に整備することができた。 【課題】 ・アンケートを実施したり、図書館祭等に取り組んでいるが、家庭での読書時間や貸し出し数に大きな変化はない。図書時間の確保などを続けていく。 ・【保護者アンケート】「おさんは家庭で読書をしている」1学期 ▲42.8%、2学期 ▲42.8% 一人年間貸し出し冊数 令和3年度 年間4944冊で 平均61冊 令和4年度 年間4878冊で 平均58冊 令和5年度 4月438冊、5月608冊、6月711冊、7月207冊、8月24冊 9月585冊、10月589冊、11月528冊 計3690冊 一人平均49冊(年間73冊ベース) ▲夏休み中の本の貸出冊数が48冊から24冊と減少した。</p>	<p>○家庭学習習慣と基本的な生活習慣の定着 【読書の取組について】 ○「読み聞かせボランティア」としては、先生が他のクラスでお気に入りの本を読み聞かせするのは素敵だし、子どもたちにとっても嬉しいことだと思います。 ○読書を家で取り組ませるのはなかなか難しい。その分、学校で読書の機会を作ってもらえるのはよい。 ▲昔はスマホもなく親が読む姿を見ていた。今は、1歳の子でもスマホを見る時代なので、家での読書は難しい。 ○読書は大事。「読み聞かせ」など、学校で「読書は楽しい」と思うきっかけや経験を作ってもらえるのがよい。家だとなかなか読まないタイプの子はいる。 ▲夏休みなど、時間があるときは親も一緒に取り組めるが、家庭学習週間の取組だと「しなくてはいけないこと」になってしまい、苦手意識が強くなることもあるのでは。 ▲「家庭での読書」より「貸し出し冊数」に重きを置くようになってきているように感じる。 ▲「Chromebookの授業は楽しい」とアンケートにあるように、好きなクロームブックを通して苦手を勉強を行ったり、電子図書などを利用することで読書することは可能なのか?</p> <p>【家庭学習習慣について】 ○PTAでの学習会は、知識の醸成ができ、一定の効果はあったと思う。 ▲学習をする理由が分からないと、やらされ感のある学習になってしまう。学習が、日常生活や将来の仕事の選択などに役立つことに気づかせる機会を作してほしい。 ▲家庭での学習習慣については、様々な取組方法を試していたが、定着していかない難しい課題である。「どういう風に家庭学習を進めていくのか」が、分からない子もいることを想定して、一人ひとりへの指導やポイントの助言を繰り返し行う必要があると感じた。 ▲アンケートによる「家庭で読書している」の数値が貸し出し数の約半数であるため、どのようになれば向上するのか、読書が押し付けになっていないかを考える必要がある。</p> <p>【今後の改善点】 ・アンケートなどの数値が低下している部分については、原因の把握を引き続き、検討していくことが必要である。 ・読書に取り組むことで、文字から想像する力や書きぶりなどの表現力が育つと考えられる。学校での読書の時間を大切にしながら、親子読書の取組などを通して、家庭での読書の啓蒙を引き続き行っていく。 ・「書く力」や「伝え合う力」を育成するための手立てや指導方法について引き続き検証していく。</p>
<p>教職員の授業におけるICT活用能力の向上</p> <p>①ICTサポーター来校日の研修会や校内研修、授業活用実践の充実 →R4年度臨時休業中のオンライン授業の「成果と課題」の確認と引継ぎ →ミライシード、Classroom、Meet、プログラミング、Jamboard等の研修会を行い、授業者の操作能力向上を図る。 →「わかりやすい授業」のためのICT機器の効果的な取り入れ方について情報交換を行う。 →学年に関わらず、同じような使用方法ができるようになる。 例 ミライシードのドリルパークで宿題ドリルを出す。 例 クラスルームで課題を出す。 例 新型コロナウイルス感染症に関わる出席停止児童に、主に算数の授業中心にライブ配信できる。</p>	<p>教職員の授業におけるICT活用能力の向上</p> <p>①【成果】 ・R4年度臨時休業中のオンライン授業の「成果と課題」の確認と引継ぎを行った。 ・ミライシード、Classroom、Meet、プログラミング、Jamboard等の研修会をICT支援員により行い、授業者の操作能力向上を適時図った。 ・「わかりやすい授業」のためのICT機器の効果的な取り入れ方について情報交換を行った。 ・県外研修にて春日井市の先進校の実践を学び、学んだ成果を12月5日に鈴峰中学校区の小学校にむけて公開授業を行った。 【課題】 ・様々な使用方法について、学習してきているが、どの学年も同じような使用方法ができるようになるまでには至っていない。</p>	<p>教職員の授業におけるICT活用能力の向上 【学校関係者評価】</p> <p>【ICT活用について】 ○ICT活用にとっても力を入れてもらっていると感じる。子どもたちも全体的に理解できるようになってきている。これからの時代には必要な知識だと思う。 ○ICT機器で映像・音声などを使って理解を深めることは効果的だと思う。 ○オンライン授業が定着化すれば、今後いろいろな場面で活用できるのではないと思う。先生方の技能習得や修練は大変と思うが継続をお願いしたい。 ▲課題にも記されているが、子どもの個々の能力によってクロームブックの使用法、理解度に差が出るように感じる。 ▲ICT活用授業のために大変さはよくわかった。子どもたちが「Chromebookの授業が楽しい」という結果が少し気になる。 ▲健康面(姿勢、目など)が気になるのも事実です。</p> <p>【タイピングについて】 ○ゲーム感覚で楽しめるので非常に効果のある学習であると思う。 ○「タイピングが楽しい」との声もある。タイピングで感想文などを書く取組は、時代に即しているので継続してほしい。 ○タイピングなどのChromebookの宿題は、家でも楽しそうに取り組んでいる。本だと、読めない字があるところまでやめようとなってしまう時があるが、スマホだとその場で調べ読み続けることにつながることもあるかもしれない。電子書籍だと子どもにとってとっつきやすくなるかもしれない。</p> <p>【ネットモラルについて】 ○ネットに頼りすぎると、自分で判断する力がつかなくなる恐れがある。情報の信頼性や信憑性を見極める能力の育成に力を入れていただきたい。 ○時代に乗りつつ、健康面にも注意しながら取り組むことよい。大人がアドバイザーしながら、うまいやり方を学んでほしい。</p> <p>【今後の改善点】 ・クロームブック使用の理解度を平均化する取組をこれからも継続する。 ・ICTの活用方法の研修に取り組みながら、授業中に話を聞くこと、書くことなど、これまで大切にしていた授業規律なども大事にしていく。 ・ネットモラルについての学習を計画的に行っていく。</p>	
<p>ICTの活用</p> <p>児童の一人一台端末の活用能力と情報活用能力の向上</p> <p>①「児童生徒の情報活用能力到達目標」を基にした全校取組の実施 →「情報活用能力」の育成の授業に取り組む。 →火曜日の「朝の学習時間」に全校でタイピングに取り組む。 →学年段階に応じて、ドキュメントなどで日記や社会見学の感想文などのまとめを書くことに端末を利用する。 →ミライシード、Classroom、Meet、プログラミング、Jamboard等を授業の中で活用する。</p> <p>&lt;指標&gt; 【児童アンケート】 「クロームブックの授業は楽しい。」85%達成 【保護者アンケート】 「クロームブック使用の授業に楽しく取り組んでる」90%達成</p>	<p>児童の一人一台端末の活用能力と情報活用能力の向上</p> <p>①【成果】 ・「情報活用能力」の育成の授業に取り組んだ。また、期間を決めて、火曜日の「朝の学習時間」に全校でタイピングに取り組む、学年段階に応じてドキュメントなどで日記や社会見学の感想文などのまとめを書くことに端末を利用することができた。</p> <p>&lt;指標&gt; 【児童アンケート】 「クロームブックの授業は楽しい。」 1学期○97.4%、2学期○96.1% 【保護者アンケート】 「クロームブック使用の授業に楽しく取り組んでる」1学期○91.6% 2学期 ○95.7%</p>	<p>【ネットモラルについて】 ○ネットに頼りすぎると、自分で判断する力がつかなくなる恐れがある。情報の信頼性や信憑性を見極める能力の育成に力を入れていただきたい。 ○時代に乗りつつ、健康面にも注意しながら取り組むことよい。大人がアドバイザーしながら、うまいやり方を学んでほしい。</p> <p>【今後の改善点】 ・クロームブック使用の理解度を平均化する取組をこれからも継続する。 ・ICTの活用方法の研修に取り組みながら、授業中に話を聞くこと、書くことなど、これまで大切にしていた授業規律なども大事にしていく。 ・ネットモラルについての学習を計画的に行っていく。</p>	

令和5年度 学校自己評価書(様式)

鈴鹿市立庄内小学校		NO. 2	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価と今後の改善点
不登校	<p>不登校をうまい体制づくり</p> <p>① 情報共有と関係機関への連絡と早期対応 → 様子が気になる子について日頃から情報共有を行い(職員会議等月1以上)、必要な時はSCや関係機関に連絡し早期対応を図る。 → SCによる観察・面談、コンサルテーションを有効活用する。(年9回) → 教育支援課不登校AD、子ども家庭支援課との連携 → 「すずかっ子支援ファイル」のある児童の支援会議を毎学期に行う。 困り感のある児童について、保護者の理解のもと支援会議を実施し、手立ての検討、関係機関との連携をすすめる。 → 個別的教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた支援を行う。 → 「ゆりのき学級」児童の理解教育の授業を行い、交流を深める。</p> <p>&lt;指標&gt; 【保護者アンケート】 「お子さんのことで気軽に学校へ相談できますか」 →90%達成 「学校は、お子さんの悩みや問題に適切に対応していますか」 →90%達成</p>	<p>不登校をうまい体制づくり</p> <p>①【成果】 ・ 様子が気になる子について日頃から情報共有を行い、必要な時にSCや関係機関に連絡し早期対応を図った。校区スクールカウンセラーの観察や面談を積極的に取り入れるようにした。 ・ 教育支援課不登校ADや子ども家庭支援課との連携を引き続き行った。 ・ 「すずかっ子支援ファイル」を所有する児童を中心に、困り感のある児童について保護者の理解のもと支援会議を実施し、手立ての検討をすすめた。(個別的教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた支援を行うように心がけた)。 ・ 「ゆりのき学級」児童の理解教育の授業を行った。 ・ 3～6年は、教育相談の時間を設定して児童と対話する機会を設定した。 【課題】 ・ 支援会議やSC面談が必要と思われるが、SCにつなげにくい状況があった。 (「適切に対応していない」 R4 1.3% → R5 1.4%)</p> <p>&lt;指標&gt; 【保護者アンケート】 「お子さんのことで気軽に学校へ相談できますか」 R3 89→R4 92→R5 1学期▲84.7% 2学期▲87.2% 「学校は、お子さんの悩みや問題に適切に対応していますか」 R3 87→R4 93 →R5 1学期 94.5% 2学期 ▲85.7%</p>	<p>不登校をうまい体制づくり</p> <p>【学校関係者評価】</p> <p>①情報共有と関係機関への連絡と早期対応 ○ 「不登校をうまい体制づくり」について、たくさん考えたり、問題があるとその都度個々に対応したりと適切にかかわっているのがよく分かる。ほとんど私たちの耳に入っていない情報なので学校にお任せです。何か必要があればお話しください。 ○ 不登校に関する件については、鈴鹿市の教育支援課等と緊密な連携をさらに継続して、子どもへの積極的な支援を続けてほしい。 ○ 支援会議の回数や内容、助言など納得できるものであった。相談についても、適時適切な助言があり、支援に関して安心できる環境であった。 ○ 引き続き、子どもの話を聞き寄り添うことのできる体制作りを続けてほしい。 ○ 困り感があり、支援が必要と思われる児童への対応および保護者への理解、様子が気になる児童についての対応は、本当に難しいと思う。学校医やカウンセラー、関係機関との連絡を引き続き密にしてお願ひしたい。 ▲ アンケート調査は大事だとは思いますが、結果をそのまま受け止めるのもどうかと思う。特にいじめ等は、慎重になって、先生がどこまで理解して受け止めてあげられるかが重要なのではないかと。</p>
	<p>② 一人ひとりの違いを認め合い互いを大切にし合える仲間づくり → 中学校区の児童の交流を図ると共に、職員の情報交換を行う。 鈴鹿中学校区ネットワーク実践交流会への参加 → 縦割り班活動を取り入れ、異学年交流を図る。 → 一人権強化月間を中心に、学校・保護者・地域が協力していじめ防止や多文化共生に取り組む。(学校便り、庄内地区代表者会などで発信)</p> <p>&lt;指標&gt; 【児童アンケート】「学校で友だちとなかよくしている」 →90%</p>	<p>②【成果】 ・ 人権フォーラム(6年)や単級学級交流会(5年)、特別支援学級交流会、樟小との交流(6年)などを通して、中学校区の児童の交流を図った。校区校長会や各担当者会、夏の学習会で職員の情報交換を行った。 ・ 毎週金曜日の業間に「ふれあいタイム」で縦割り班活動を行い、異学年交流に取り組んだ。 ・ 人権強化月間を中心に、学校・保護者・地域が協力して「いじめ防止」に取り組む。人権教育の研究授業や人権集会に取り組んだ。また、ポジティブカードで友だちのよい所を見つけるようにした。 【課題】 ・ 1学期の個別懇談会のあと、いじめ事案が分かってきて、関係機関と連携して対応を続けた。今後も日記や日頃の聞き取りなどから、児童の状況を把握し、職員で情報共有し対応していく。</p> <p>&lt;指標&gt; 【児童アンケート】「学校で友だちとなかよくしている」 1学期 93.4% → 2学期96.2%</p>	<p>②一人ひとりの違いを認め合い互いを大切にし合える仲間づくり ○ 特別支援学級交流会は好評であると聞いている。今後も継続してほしい。ただ、そういった環境が苦手な子もいるため、適切な対応をお願いしたい。 ○ 中学校区での他校との交流は、子どもたちにとって良い体験だと思う。今後もそのような機会をさらに増やせるとよいと思う。</p>
	<p>③ いじめ防止について → 「いじめ防止基本方針」の策定、確認と見直し → いじめや差別、仲間づくりに関する授業に取り組む。 → 「いじめアンケート」の学期1回の実施と積極的認知 → 各クラスの仲間づくりの授業実践から、人権集会での発表を行う。</p> <p>&lt;指標&gt; 【児童アンケート】 「学校へ行くのが楽しい」 →85%達成 「先生は自分のことをほめたり認めたりしている」 →90%達成</p>	<p>③いじめ防止について ・ 「いじめ防止基本方針」の確認と見直しを行った。 ・ いじめや差別、仲間づくりに関する授業を全学年が行い、人権集会に取り組んだ。 ・ 「いじめアンケート」を学期に1回実施して、積極的認知を行って事後指導に取り組んだ。 ・ ピンクシャツ運動に4月・11月に取り組み、児童や地域、保護者に啓蒙した。</p> <p>&lt;指標&gt; 【児童アンケート】 「学校へ行くのが楽しい」 R3 78→R4・1学期80 2学期84.2→R5・1学期84 2学期92% 「先生は自分のことをほめたり認めたりしている」 R3 85→R4・1学期93 2学期96.1→ R5・1学期96 2学期▲89%</p>	<p>③いじめ防止について ○ いじめ防止のためのアンケートを今後も活用して行ってほしい。</p> <p>【今後の改善点】 ・ 「不登校をうまい体制づくり」を常に全職員で意識して取り組む。 ・ 「適切に対応している」「学校で友だちと仲良くしている」「学校に行くのが楽しい」に当てはまらなかった児童・保護者へのケアを意識的に取り組む。 ・ 特別な支援を必要とする児童やその保護者に対して、特別支援教育Coを中心とした組織をつくり、個に応じた適切な支援が行えるようにする。</p>
地域連携	<p>子どもたちが安心・安全に過ごせるための環境整備を地域と共に進める</p> <p>① 通学路の安全確保、校庭の環境整備に取り組む</p> <p>&lt;指標&gt; 【保護者アンケート】 「学校は児童の安全確保に取り組んでいる」 95.6→98%達成</p>	<p>子どもたちが安心・安全に過ごせるための環境整備を地域と共に進める</p> <p>①【成果】 ・ 通学路の安全確保のため安全安心ボランティア3名に毎日見守って頂くともに、職員による見守りも適時、実施した。民生委員の「あいさつ運動」を昨年度途中より、正門前から危険箇所に変更して頂き、引き続き見守って頂いた。 PTAによる標識の移設、飛び出し防止注意の設置等に取り組んで頂いた。また、職員による登校の見守りを定期的に行なった。 ・ 校庭の環境整備として、トラック整備、芝山の除草、玄関前の整備、花壇の整備などに、地域の方に取り組んで頂いた。</p> <p>&lt;指標&gt; 【保護者アンケート】 「学校は児童の安全確保に取り組んでいる」 R3 95.6% → R4 2学期97.3% → R5 2学期97.2%</p>	<p>子どもたちが安心・安全に過ごせるための環境整備を地域と共に進める</p> <p>【学校関係者評価】</p> <p>○ 地域性から「地域が学校を守る」という視点で、これからも地域住民による環境整備を継続していきたい。 ○ 新型コロナウイルス感染症の対策をしたうえで、運動会等の各種イベントにおける企画や参加人数等は適切であったと思う。 ○ 通学路の安全確保では、PTAや民生委員、ボランティアの協力により、安全標識の移設など、地域ぐるみでの協力いただき、感謝している。 ○ ボランティアや教職員の方々に、登下校を見守っていただき、感謝している。 ○ 毎朝通学路に立っていただいている安全安心ボランティアの方から「車の往来で一旦停止がわかりにくい箇所がある。」との指摘に対して、学校は行政と連携して表示をわかりやすくしてもらおうと早く対応できていると思う。 ○ ボランティアのみでなく、駐在所に依頼してパトカーによる広範囲な通学路の警戒活動を行うことにより、地域の安全安心を守ることができると思う。 ▲ 通学路の見守りやボランティアなどで、保護者の協力をもう少し得られるとよいと思う。今後、検討したい。</p>
	<p>地域行事への参加と学校からの発信</p> <p>① 学校運営協議会(年6回実施)にて、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、学校の現状や取組を伝え、地域との双方向の交流を推進する。</p>	<p>地域行事への参加と学校からの発信</p> <p>①【成果】 ・ 学校運営協議会やPTAの委員会にて意見を頂き、新型コロナウイルス感染症対策として、運動会の参観人数のアンケートを実施したことで、混乱や感染もなく実施することができた。</p>	<p>地域行事への参加と学校からの発信</p> <p>○ 地域との関係や連携は、庄内小ならではのよきであり、とてもいい交流をしていると思う。その分、職員の負担や授業への影響も考えられるので、無理のないように相談して地域に振ってほしい、今後も続けてほしい。 ○ 夏休みを利用した庄内小職員と学校運営協議会委員との意見交流会では、学校の様子や取り組んでいることなどが話された。今後も、積極的に意思疎通を図るようにしていただきたい。 ○ 小学校からの発信により、地域の方々にも学校の様子を知ってもらい理解していただくことは大切である。新型コロナウイルス感染症対策で行事等が縮小されてきたが、少しずつできる範囲で戻りつつあり良かったと思う。 ○ 昨年まで人数制限があった行事も、開催方法を考えながら、地域の方にたくさん参加してもらいよかった。今後も地域とのかわりを大切にしていっていただきたい。 ▲ 「学校だより」で、ボランティア募集を募っていただくことを引き続きお願いしたい。(例えば、○月○日に学習ボランティア募集しますとかクラブ活動など)</p>
	<p>② 学校だより等(昨年55号)で学校の状況を地域・保護者に積極的に伝えていく。庄内地区代表者会・年12回、民生児童委員会、地域回覧</p> <p>&lt;指標&gt; 【保護者アンケート】 「学校は、懇談会や通信などで教育方針や教育活動・児童の様子を分かりやすく伝えていきますか。」 → 95%達成</p>	<p>②【成果】 ・ 学校だより等(昨年54号)で、学校の状況を地域・保護者に積極的に伝えるようにした。学校だより等を見た地域の方に環境整備など幅広い活動でご協力頂いたり、「いきいき長寿の会」のあとにお手紙を頂くなど、子どもたちへ地域のあたたかい声を頂戴した。また、庄内地区代表者会や民生児童委員会においても、学校の様子をお伝えすることで、様々なご意見を頂くことができた。地域の方に庄内祭を参観していただき、児童の様子を知ってもらうことができた。</p> <p>&lt;指標&gt; 【保護者アンケート】 「学校は、懇談会や通信などで教育方針や教育活動・児童の様子を分かりやすく伝えていきますか。」 R3 97.8% → R4 2学期93.3% → R5 2学期 ▲91.4% ※各学年の通信の発行回数は昨年度より増えて、児童の作品などの紹介もしたが、保護者アンケートの結果は悪くなった。行事などのねらいを事前に伝えていくこともころがけていきたい。</p>	<p>【今後の改善点】 ・ 学校運営協議会委員と小学校職員との交流は、内容を検討しながら、来年度も引き続き行いたい。 ・ 来年度も、職員や児童だけでは難しい取組などは、学校運営協議会を通じて、地域のみなさんに相談しながら協力をお願いしていきたい。</p>
	<p>③ 地区市民センターを中心に地域と連携して新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、地域との交流事業(桜祭り、庄内祭、いきいき長寿の会など)に取り組む。</p>	<p>③【成果】 ・ 地区市民センターを中心に地域と連携した感染症対策などに取り組む、校内での感染拡大は見られなかった。また、地域とできる範囲での交流事業(桜祭り、庄内祭、いきいき長寿の会など)に取り組むことができた。</p>	
	<p>④ ボランティアを募集し、学校教育活動の理解・支援を推進する。</p>	<p>④【成果】 ・ ボランティアを募集に積極的に取り組むとともに、学校教育活動の支援をして頂いた。</p>	
<p>⑤ 保護者アンケート・児童アンケートを実施する。(年1回以上)</p>	<p>⑤【成果】 年2回実施した。</p>		
学校経営	<p>働き方改革の推進</p> <p>① 第2、4水曜日を定時退校日として教職員の勤務時間削減を目指す。 成果指標 一人当たり月平均時間外労働時間 25時間以下 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12名以下 活動指標 ・定時退校日に退校できた職員の割合 70%以上 ・60分以内に終了した放課後開催の会議の割合 60%以上</p>	<p>働き方改革の推進</p> <p>① 第2、4水曜日を定時退校日として教職員の勤務時間削減を目指す。(9月末現在) 成果指標 一人当たり月平均時間外労働時間25時間以下 R4 19.8時間 → R5 19.9時間 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12名以下 R4 1名 → R5 0名 ・月80時間を超える時間外労働者の延べ人数 0名以下 R4 0名 → R5 0名 活動指標 ・定時退校日に退校できた職員の割合 70%以上 R4 ▲55% → R5 ▲67.6% ・60分以内に終了した放課後開催の会議の割合 60%以上 R4 ▲44% → R5 ▲50% 【成果】 ・chromebookの持ち帰りやスクールサポートスタッフによる印刷業務などの実施により、学校での平均時間外労働時間は25時間以下で、平日の時間外労働時間は減少傾向である。 【課題】 ・会議の内容を協議と連絡に分けて、かかる時間を短縮していく必要がある。</p>	<p>働き方改革の推進</p> <p>【学校関係者評価】</p> <p>○ ワークライフバランスの推進は、県だけでなく国を挙げての取り組みであることから、更に時間を減らせるよう施策が必要である。 ○ 働き方改革は大切であるので、先生方の負担が少しでも少なくなることはよいことだと思う。自宅への持ち込み仕事を進めてほしい。 ○ 先生方の意見なども参考にしながら、働きやすい環境を整えていってほしい。</p> <p>【今後の改善点】 ・ 年間行事予定を適時、見直していくことで業務の平準化を図り、特定の職員に業務が集中しないように引き続き取り組む。</p>